

10/16  
五曜

# 川内2号機再稼働

# 問題山積のまま

# 民意無視の暴走

菅義偉官房長官は、九州電力が川内原発2号機を再稼働させた15日、「原子力規制委員会によって世界で最も厳しいといわれる水準の新規制基準に適合すると認められたものについては、その判断を尊重して再稼働していく」と述べ、再稼働推進の安倍政権の方針を繰り返しました。

しかし、新規規制基準で求めている対策の中身は、既存原発が不適格にならないよう、格納容器の設計基準を見直すことをしています。住民の安全にとって肝心な避難計画も審査の対象外です。住民避難の実効性は検証されていません。規制委員の田中俊一委員長は就任当初、規制の枠組みについて「防災計画まで入っていないと本当の安全確保の国際的な標準になりません」と認めています。米国原子力規制委員会(NRC)では、原子力緊急避難計画を規制の対象にしています。「世界で最も厳しい」ところか、国際的な標準に

## 根拠のない「最も厳しい水準」

再稼働が進行された九州電力川内原発(鹿児島県薩摩川内市)



すら達していません。審査の過程も問題です。電力会社が出した内容の妥当性を判断する際、厳正にチェックしていないことが判明しているほか、川内原発1号機では、運転開始から30年で行う高経年化(老朽化)対策を規制委が認可したものの、耐震評価が終わっていない機器もありました。

火山対策でも、巨大噴火の兆候があれば燃料を運び出すとする九電の方針は、規制委は了承しませんが、運び出し先や運転の停止基準など決まらないままです。

原発を動かせば増え続ける使用済み核燃料などは、「核のゴミ」の問題も見て行こう高経年化(老朽化)対策を規制委が認可したものの、耐震評価が終わっていない機器もありました。

民意ははっきりしていません。8月の1号機の再稼働後の各種世論調査でも、再稼働「反対」が半数を超え、「賛成」を大きく上回っています。12日には鹿児島市内で、再稼働を許さないという800人の集会とデモがあつたばかりです。

根拠のない「最も厳しい水準」などとする安全神話をデコに、民意を無視して再稼働を進めるのは民主政治と相いれません。安倍政権の責任は重大です。

(原発「取材班」)



「川内原発今すぐ止める」とコールする参加者=15日、首相官邸前

再稼働に抗議 官邸前

九州電力が川内原発2号機の再稼働を強行した15日、首相官邸前で再稼働に抗議するアピール行動が行われました。参加者は、「川内原発 即時停止」などのプラカードを手に、「川内原発、今すぐ止める」と訴えました。主催は、原子力規制を監視する市民の会です。

東京都三鷹市の花上香世子さん(70)は「安倍首相は、世界最高水準」といいますが、いまの規制基準は、火山対策や十分な避難計画もありません。目先の利益を優先して、住民を危険にさらす再稼働

蒸気発生器の耐震性に疑問

東京大学名誉教授(金属材料学)井野博満さんの話 川内原発2号機は、九州電力が2009年に蒸気発生器

3基すべてを14年度をめどに取り換えるとしていながら、いまだに取り換えられていません。九電は、東京電力福島第1原発事故で運転が4年以上停止していたことを理由にして



いるようですが、おかしい。

川内1号機では、過去に同型の蒸気発生器となりません。さらに腐食が相次いだことを受けて腐食に耐える性能を向上させたものに交換しています。原食は止まっていますが腐食は止まらず、むしろ余計に進むかもしれませ

蒸気発生器を取り換えないまま運転することは、危険です。

を許すわけにはいきません」と語りました。東京都世田谷区の石渡敏子(よしこ)さん(70)は「反対する国民の声を無視した再稼働です。原発を止めるために声をあげ、あらゆる手段で再稼働反対の意思を示したい」と話しました。